

# 楽しい思い出いっぱい ふるさと離れて早五十年

葛飾区 大滝恵三（大手町出身）

高校を卒業して上京、古里高田を離れて丁度五十年経った。今でも私は、高田の人、上越の人、そして新潟県人という意識は変わらない。古里にこだわり続ける理由は、一、古里高田での思い出は良かったことばかりであった（詳しくは後述）。二、古里が常に身近にあり、私を癒してくれている。具体的には、①学生時代、古里の学生寮に在籍したお陰で寮友との交流が深い。②私の勤務地周辺に、中学校、高校時代の同級生が多かった。③高校の同期会の事務局を担当している。④Jネットが誕生した時、上越市東京事務所が私の勤務地の目の前にあり、運営委員を務めていたこともあつて頻りに出入りしていた。三、古里には全国に誇れる見どころが、夜桜やハスの高田城址公園はじめ、前島記念館、岩の原葡萄園、スカーン発祥の地、春日山城跡周辺の社寺な

ど多くあり、しかも酒、米、海の幸が格別に旨いということで、東京からいろいろな仲間を案内する機会が多く、その度に古里自慢している。四、古里に帰省する機会が多く、その度に城址周辺はじめ、古里の移り変わりを確認している（この三月にも帰省し、五十年記念の家族ぐるみの写真を収めてきた）。

## 思う存分遊んだ高田での思い出の数々

子ども時代、本当に良く遊んだ。勉強はテストの時だけの一夜漬け、受験勉強もした記憶が無い。小学校低学年では主として野球、といつても手製の布ボールかゴムボールでの三角ベース。高学年では歩いて三分の城址外堀での魚釣り、小ぶりのフナが良く釣れた。釣った魚は自宅の小さな池に放したが、野良猫の餌食

になることが多かった。内堀での釣りはあまり釣れなかった。夜の鰻釣りは時々五十七センチ位のが釣れ、蒲焼にして食べた。内堀では他に、菱の実取りや赤フンでの水遊びなどもやった。城址周辺ではギンというトンボの釣り（釣り方については昨年九月の「お元気でですか？」に他の方が書いている）も良くやった。左手の指の間に二匹ずつ八匹になると自宅に帰り、締め切った部屋に放すが、翌日までに死んでしまう。榊神社ではセミヤ兜虫捕りも。

小学校時代、最も得意な遊びは、エシタという長方形のメンコで、五十センチ四方位の裏返しのお盆の上に、参加者がエシタを一枚ずつ乗せ、順番に「出し」か「はぐり」で成功したらもらう。取られた方はまた供出する。一年位で奪ったエシタはミカン箱満杯に。五年位から始めた卓球は、高田公園内の公民館で、遊び半分で行っていたが、六年の時、市民卓球大会小学生の部で優勝し、以後高二まで部活動としてやった。

家の中では、野球、相撲などスポーツの実況中継と歌謡曲番組を聴くため年中ラジオにかじりついてた。野球はプロ、高校、六大学などの中継をスコアブックを付けながら聞くことが多かった。歌謡曲はラジオだけでなく、好きな歌のシン

グル盤、好きな歌手のSP盤のレコードも良く集めた。ラジオは五級スピーカーという大きなもので、上京の友にした。

高田時代の極め付きは学童野球との関わりだろう。昭和二十年代の後半、大手町小学校では毎年八月中旬の三日間、校内町内対抗野球大会があった、私が中三、弟が小六の時、私の住む大手町チームの練習に私が自発的にコーチ役として参加していたところ、監督を務める町内会のボス（市役所職員で隣家のK氏）に、大会直前までの指導を頼まれた。弟が主将でキャッチャーの大手町は見事優勝した。以後私は大学四年までの八年間、同チームの面倒をみることとなり、毎年七月一日から、朝五時に子どもたちは、用具を



家族写真

預かる私の家に集合し、一軒おいた大手町小学校校庭で七時まで練習する。練習は主として打撃と実戦的練習に費やした。打者はバットを短めに持ち、当てればヒットかエラーで出塁する確率が高く、出塁したらスキを突いて次の塁を狙うなど、基本以外の要素も未熟な子どもに教えた。この結果、八年のうち五回も優勝したが、勿論毎年、素質の高い二〜三人の選手に恵まれたことも大きかった。私は試合で指揮は執っていないが、私の存在は轟き、寺町二の五十嵐監督、大町三の佐藤監督（マンガ堂）と共に『大手町の大滝は高田の野球三バカ』と謳われた。



青田川



お花見会場



辨神社



公民館（旧高田権行社 現存せず）